

# PEG・在宅医療学会学術集会 日本PTEG研究会学術集会



2024年9/15・9/16に別府国際コンベンションセンター  
B-Con Plazaにて行われた学術集会のボランティアに参加しました！

〈内容〉 受付・会場内誘導・会場アナウンス・照明・クローク・バス誘導等



## 〈感想〉

学会が円滑に進行するように、各自が役割を遂行することができました。

研究発表内容を聞くこともでき、PTEGや在宅医療の問題などについて学びが深まりました。



# 学会のボランティアを通して学んだこと

大分中央看護学校 3年生 奥園 杏

9月15日に開催された第28回PEG・在宅医療学術集会の学生のボランティアとして、口演のアナウンスをさせていただきました。1日のスケジュールとアナウンスの内容を事前に確認していましたが、学会などの場でアナウンスの経験はなく、とても不安でした。言葉がつまったり、名前を間違えることがないように前日から何度も原稿を読み返しました。

当日会場へ行くと自分が思っているよりずっと会場が大きく、不安と緊張がさらに大きくなりました。学会会長の松本敏文先生が来てくださり、「今日はよろしくね。がんばって」と声をかけてくださいました。緊張と不安でいっぱいでしたが、松本敏文先生の言葉はとても心強く、その後は、落ち着いてアナウンスをすることができました。



今回、学会のアナウンスを通して、「相手にわかりやすく正確に伝えること」、「学会スタッフの一員として学会を成功させるため一丸となってチームで協力すること」の重要性を学ぶことができました。

看護をするうえで、相手にわかりやすく伝えること、チームの一員として自己の役割を遂行すること、チーム間の連携は、大切なことであると改めて考えることができました。これからの看護実践につなげていきたいと思います。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。



# 学会に参加して学んだこと

大分中央看護学校 3年生 臼杵 美友

今回、学生ボランティアを通して学会に参加させていただき、胃瘻について学びを深める機会をいただくことができました。

「悪い胃瘻はあるのか」という議題については、どの医師も医療従事者のかかわり方次第でいい胃瘻にも悪い胃瘻にもなるとの結論でした。生きていくうえで不可欠である栄養という面において胃瘻が適応となる患者も多くいます。胃瘻は、患者やその家族の望みを叶え、より多くの対象者が満足度の高い生活を送ることができるような道具となる必要があります。そのため医療者は安全、適切に管理を行うことが大切であると感じました。

「特定行為看護師による胃瘻交換」では、医療の場が拡大している現代において医師だけでなく看護師に求められる役割も大きくなっていると感じました。今後益々需要が大きくなっていくと考えるため、学ぶ意欲を持ち続けて看護に携わっていくことが大切であると学びました。

進化を続ける医療に対して、安全・安心な看護を提供でき

るような存在を目指して、学習を続けていきたいと改めて思う事ができました。ありがとうございました。

